

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102149		
法人名	医療法人医誠会		
事業所名	グループホーム茜		
所在地	熊本市北区貢町135		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村報告日	平成24年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成24年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①GHの目標である残存機能の維持を行い、家庭的な雰囲気のもと、落ち着いた生活が出来るよう支援している
②認知症デイサービス(2F)や併設施設の介護老人保健施設みつぐ苑の行事に参加、交流している
③訪問歯科受診や指導により口腔ケアを実施している
④2Fにある認知症専門の「みつぐまち診療所」と連携し、日々、認知症の方へ必要なケアを実践すると共に健康管理を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設法人や階上には専門医の診療所があり、医療連携や緊急時の連携も構築されており、入居者や家族、職員にとっても安心な環境である。入居者が6人であり、家庭的でおだやかで入居者同士がお互いを支えあう様子がみられる。職員は入居者の笑顔がなるべく見られるようにと、入居者の潜在能力の引き出しにいろいろな仕掛けを工夫し、役割や趣味の継続に努め、寄り添うケアを念頭に支援している。法人には地域支援室があり、地域への啓発や連携を図る取り組みを実践されており、益々入居者や、家族、地域住民にとって信頼されるホーム運営が期待される。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	茜の介護理念に基づいてケアを行っています。 ①ご利用者の安全を大切にします ②1人1人の思いを大切に笑顔で生き甲斐のある生活を目指します ③個人情報の保護に努め家族に信頼されるホームを目指します ④地域社会とのつながりを大切にアットホームな環境作りに努めます	代表者を始め全職員で作成したホーム独自の理念を廊下や台所、目につく箇所に掲示している。月に1回の会議の際や業務中に振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の方、老人会の方がボランティアに来ていただいて、交流の場が持てるようになっている。	法人の理念のもと、地域との関係を大切にし、地域社会の一員として、職員は清掃活動に参加したり、地域住民によるボランティア訪問等受け入れている。ホーム周辺の散歩等の際に地域住民への挨拶を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①クリニックを通して認知症について、理解しやすいように説明 ②家族会などで実生活をみて頂き、認知症や老人の心理などを啓蒙している ③健康教室等で認知症予防(脳活性)の取り組みを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①運営上の意見や地域の情報を頂き、行事に生かしている ②ボランティア希望の方を紹介して頂き、地域のご高齢の方や認知症デイサービスと共に活力を頂いている	メンバーには年間の計画を事前にお知らせし、会議が充実したものになるようにしている。メンバーは老人会会長、民生委員、地域包括センター職員、入居者の家族(毎回違う)、法人地域支援室長、ホーム職員から構成され、様々な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①包括との連携 運営推進会議出席時、茜の生活状態説明 他事業所の取り組み等、情報提供して頂き可能な部分は生かしている ②市の介護相談員受け入れ。個人の話、全体の様子等をみて頂いている	地域包括職員は2か月毎に運営推進会議への出席があり、定期的に市の介護相談員を受け入れ、入居者からの話を聞き取り、全体を報告してもらっている。不明な点等があると行政に相談・情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①研修会の実施 ②日中は玄関の鍵をかけずに見守りで自由な暮らしを支援している	法人及び階上の専門医やホーム独自の研修に参加し、身体拘束の弊害については職員は理解している。言葉による拘束にも配慮している。日中は玄関の鍵はかけておらず、行動を制限せず、見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①虐待についてアンケート調査や勉強会も行っている ②入浴時などに身体観察の実施 ③精神的虐待には特に配慮している		

グループホーム 茜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①みつぐ苑(併設施設)の研修会参加 ②任意後見制度利用経験あり ③入居者の話を傾聴し、何でも相談できる雰囲気作りを心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている	①人事の異動、介護報酬や利用料変更等、家族会等で説明し、ご理解いただき、納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①家族会、面会時の対話で要望があった場合は極力実施している ②ご意見箱設置	家族の面会は多く、その際に些細なことでも意見をいただけるよう雰囲気作りに努めている。遠方の家族には電話で連絡し、入居者の状況を報告している。出された意見は、記録し綴り、早急に解決するように努めている。家族会を年2回開催しており、誕生会にも家族参加を呼び掛けている。毎月の請求書とともに入居者のホームでの生活状況や健康状態を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①管理者が独断で事を決めない様に、代表者は常に注意している ②勉強会時の他、日頃より職員の意見を聞きながら運営している ③時折、懇親会を兼ねてコミュニケーションを図っている	管理者は月1回の会議の際や業務中に職員の意見を把握する機会としている。出された意見や提案は、代表者や法人に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①職員が向上心を持って取り組めるよう、目標をたて、共に達成できるよう整備している。また、法人全体の組織運営に基づき年2回、面接実施 ②職員の年齢、体力、家族状況を把握し、無理なく就業出来る状態を作るように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GHの介護だけではなく、広く技術知識が得られる様、デイサービスや通所リハでの研修(苑内留学)等を実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少人数制のため難しいが、連絡協議会には可能な限り、出席するよう努めている。今後、出席できる体制に持っていきたい。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族とともに見学して頂き、ご本人の不安や要望などを傾聴し、ご家族と調整し不安の解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①家族とともに見学して頂き、ご本人の問題点、家族の思いなど傾聴し、ご利用者との中を調整し不安の解消に努めている。 ②現在の問題点を聞き取り、ケアプランの目標としチームケアに活かせるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランに取り上げ状態観察後、家族の了解を得て、必要なサービスを提供出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者に可能な部分を受け持っていたき、清掃などを行うと共に、本人の残存能力が活かせるよう家事、趣味など、援助しながら入居者全員が家族としての気持ちを持てるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者が家族関係で苦しんでおられる場合などは、相手の気持ちを傾聴し、利用者と家族の関係を円滑に運ぶ様、連絡などを行い、絆が深まるよう援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①友人や自宅近所の方などの面会者には、再来を依頼している ②併設施設に友人が入所された場合等、定期的に面会ができるよう支援している	入居者の馴染みの場所や人との関係を大切に考え、訪問時に再来所を依頼している。併設施設の事業所に友人を訪問するなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①入居者同士の会話が出来るよう見守り支援している ②居室に数名集まり茶話会が行われている事もある ③入居者同士、相互に助け合っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院し、契約終了後もお見舞いに行き、退院後の相談にのり、安心できるよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①ケアプラン作成において、十分なアセスメントを行い、モニタリングなど実施している ②困難な場合は主治医に相談し、助言をいただいている	日頃のさりげない会話から思いの把握に努めている。散歩の際など聞けることも多い。困難な場合は、反応やしぐさ、家族、主治医の助言から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居時のアセスメント及び観察で把握している ②入居後、家族を支えて、会話し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①申し送りで情報交換を行っている ②日頃から注意深く観察し心身状態の異常の早期発見に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①3ヵ月に1度、又必要時に担当者会議、モニタリングを行っている ②利用者の状況が変わった時は、その都度話し合いプランを変更や追加をし、家族に報告・同意をえている。	計画作成担当者が中心となり、職員の意見を取り入れ、3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。3ヶ月毎に本人・家族に計画を説明し、了承をいただいている。変化がある場合は随時計画の変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日報、カルテにより実施している ②状態観察し家族と相談して、ケアプラン見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①歯科の訪問診療や医療機関と連携して医療に当たっている。利用者が妄想が激しく家族が苦しんでいる時は面会を減らして家族の支援をする等臨機応変に行っている ②2階にある認知症デイサービスとの交流、みつぐ苑で行われる行事に参加している		

グループホーム 茜

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる音楽レクに参加したり併設施設で行われる行事にも参加し楽しむ事ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人、家族の希望により併設の診療所をかかりつけ医としている。症状により家族の了解を得て受診を支援している ②精神面を含めた体調管理が図られている ③歯科の訪問診療も定期的に行われている	階上の診療所は専門医であり、入居者や家族の希望でかかりつけ医となっており、ケア連携が容易にとれ、受診時等入居者にとっても安心である。かかりつけ医以外への受診は基本家族同伴の通院であるが、希望でホーム職員の通院介助もしている。毎週歯科の訪問診療を受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から異常の報告が看護師にあり、受診の必要があれば、かかりつけ医に連絡し受診に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①看護サマリーの提供 ②定期的に面会に行き、その際情報交換や相談に努める		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①医療連携体制の説明時に重度化や終末期について話し合っており、指針同意確認書も準備している ②終末期については家族の協力を前提としており、その都度かかりつけ医や家族と十分に話をするようにしている ③急変に備え、安心パックを準備している(最低必要品を常時バックにまとめている)	重度化や終末期については文書化されており、入居時に説明をしている。法人とかかりつけ医との連携体制も整備され、家族の意思・協力を確認し希望に応じた支援をするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や苑内研修で定期的に訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①茜単独での避難訓練は昼夜を想定し、年2回実施 ②非常サイレンを鳴らして、地域協力を得ている ③避難訓練の際、地域の方も参加して下さっている ④併設施設と合同で年2回実施。合計4回実施。	併設施設と合同で年2回消防署指導のもと、避難訓練を入居者参加で実施している。また、ホーム独自でも年2回避難訓練を実施している。その際にはサイレンを鳴らしたり、地域の方の参加、協力を得ている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①プライバシー保護のためにマニュアルも備え、掲示板に掲示している ②入浴・排泄時の言葉かけにも配慮するよう周知徹底を図っている ③プライバシーへの配慮から記録は入居者から離れた場所で行っている	入居者の人格を尊重した言葉使いやプライバシーに配慮した対応を心がけている。日頃より気をつけており、気づいた時には注意しあい、会議でも確認している。記録する際にも入所者の目につかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①入居者の思いを傾聴することにも努め、話しやすい雰囲気作りをしている。 ②居室だけではなく散歩途中の会話から本人の思いや希望を聞き取ることもある ③①②により、思いを引き出し、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者のペースに合わせ自由に過ごせるようにしている。散歩・テレビ視聴・生け花など出来るだけ希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①自分で出来る入居者には入浴準備をお願いしている ②出来ない入居者には入浴準備の際、どちらの洋服が好きか選んでもらっている ③化粧など必要に応じて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①個人の嗜好や味付けにも注意し、メニューを決める際、入居者に聞き取る事もしている ②下ごしらえ、盛り付け、配膳、片付けも入居者の日課となり定着しており、職員も雰囲気作りをしながら食事と共にしている	入居者の好みや希望、季節感を取り入れた献立を職員が立てている。食材は新鮮なものを専門店で届けてもらっている。野菜の下拵えや味付け、配膳など能力に応じて入居者と伴に行っている。職員も同じテーブルと一緒に同じ食事を摂っており、会話の中から様々な情報を把握できる機会ととらえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①毎食の摂取量のチェックや水分摂取量は、全職員で把握するよう努め、体調管理している ②併設施設の管理栄養士に相談し助言を受けている ③夜間は各人居室にペットボトル設置し、夜間の水分補給に留意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、口腔ケアの施行、誘導は職員で行っている ②就寝時、義歯洗浄後、ポリドントなどにつけている ③定期的に歯科衛生士による指導も受けている		

グループホーム 茜

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①定期的にトイレ誘導を行っている ②トイレの場所を分かりやすく掲示している ③入居者全員にトイレで排泄出来るよう支援している	昼間はトイレでの排泄の支援をしている。1名以外は下着使用であり、同様に夜間の排泄もトイレでの排泄支援をしている。時間やしぐさを把握し声掛けやトイレ誘導を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排便チェックは毎日行っている ②便秘気味の入居者に対しては腹部マッサージや水分摂取、散歩も行っている ③献立に食物繊維の多い物を組み込んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	①当日の気分や体調を確認している ②拒否のないように誘導している ③拒否の時、時間や表現を変え、再度声掛けし誘導している	入居者の希望に応じた入浴の支援を実施している。拒否の方は無く、気分拒否をされる方には時間をずらしたり、声掛けの方法を変えたりして工夫している。1対1の対応で入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①安眠しやすいよう環境作り、室内の温度、明るさ等に配慮している ②不安のある方に対しては、気持ちが落ち着くまで話を傾聴している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①手渡し後、服薬を必ず確認している ②薬に追加や変更があった時は、体調に変化がないか全職員で注意深く観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①食事作りや掃除、洗濯、花の水やりなど出来る事は役割分担している ②ぬりえ、ボール遊びなどのレクリエーションやらっきょう漬、干し柿作りなどを通じて楽しみ事の支援もしている ③出来る役割を評価し、自信を持って頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①併設施設訪問が日常の外出先となっている ②戸外に外出を希望される入居者に対しては家族やボランティアと協力しながら出かけられるよう支援している(買い物、ホテル見物など)	併設の施設へ買い物や友人に会いに出かけることも多い。希望があれば家族等の協力を得ながら外出支援を行っている。併設施設でのイベントに参加している。	ホーム独自で計画された外出が天候不良のため実施できなかったということで、定期的に外出の計画をたて、実施されることを期待します。

グループホーム 茜

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望や力に応じて、お菓子やジュースと一緒に買いに行き買い物の楽しみも支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は居室でも話ができるよう配慮している。手紙については切手購入、投函が自由に出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど適度な採光と温度調節を行い、季節の花を飾ったり、共同作品のカレンダーを展示し、季節感を取り入れる工夫をしている	リビングは日当たりがよく、季節により日差しが強く、遮光ネットを付け工夫している。庭には花が植えられ、摘んだ花を共有スペースや居室に飾っている。手作りの作品や書、イベント時の写真等が飾られ、訪問者にもホームでの生活が分かるようにしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と会わない方の座席を考え、孤立しないように配慮している。テレビをみる方、折り紙をする方、各自が自由に過ごせるよう席をセッティングしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を持ち込んでもらっている。入居者の希望により、自分で作った作品や家族の写真を置き、居心地良く過ごせる居室の配慮をしている。	入居者に応じた居室支援がしており、以前使用されていた馴染みの家具や家電、生活用品が持ち込まれている。家族の写真や位牌などもあり、お互いの居室訪問をされ、お茶を楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①バリアフリーとなっている ②トイレの表示など分かりやすく低い位置にしている ③園芸も庭に下りず、ベランダに立った位置で作業出来るようになっている ④掃除用具・レクの用具など収納場所も分かりやすく表示しており、自由につかえるようにしてある		

(別紙4(2))

事業所 グループホーム茜

目標達成計画

作成日：平成 24年11 月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	外出の計画が少なく、天候等で中止となることもあり、外出の機会確保ができていない。	外出の計画をより多く作る。	散歩支援やコンビニ・スーパーなどへの買い物支援を気候が良い時期に計画。 季節に沿った行事(花見等)を計画。	6ヶ月
2	37	利用者の希望の表出や自己決定の支援を引き出すために、スタッフの質の向上がさらに必要。	安心と尊厳と希望に添える生活がさらにできるようにする。	認知症に対する理解を研修等で深め、スタッフ間の連携を強め、情報の共有を図る。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。